

熊本城（原 雨城）

蘇岳を 東に 望み 西は 火の 海

白川 南に 下つて 水 潺湲

藤公の 偉業 城と 偕に 熾んに

秋雨 春風 勇魂を 弔う

蘇嶽東望西火海 白川南下水潺湲
藤公偉業城偕熾 秋雨春風弔勇魂

解説 我が家の庭から阿蘇五岳の雄大な眺めに接し、往時を思い起こして詠んだもの。

語釈 ※蘇岳Ⅱ阿蘇山。※火海Ⅱ不知火の海。※白川Ⅱ源を阿蘇に発し、熊本平野を貫流して有明海にそそぐ。※潺湲Ⅱ水のさらさらと流れるさま。※藤公Ⅱ加藤清正公。※城偕熾Ⅱ熊本城が永久に素晴らしい姿を示すように、清正の武勲、偉大な治水工事、厚い信仰心、その偉業はまことに素晴らしいものがある。※勇魂Ⅱ猛々しいつわものの魂。

通釈 雄大な阿蘇の五岳を東の空に望み、西は洋々として不知火の海が広がる。白川の水は悠然と熊本平野を南にさらさらと音をのこして流れる。熊本城が厳としてその威容を長久に示すように、加藤清正の赫々たる武勲、偉大な治水工事による安民救済の功績は後世に榮として輝くことである。そして、菩提寺本妙寺の苔深い石礎に降る蕭々たる秋の雨や、春の楠の若葉に嫋々と吹き来る東風も、清正のたけき魂をなぐさめることである。